

<h1>第292回月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	事務局長 畑	企画運営委員長 増田

- ◎ 日時 2017年8月25日(金)10:00~16:00
- ◎ 場所 品川区 きゅりあん 5階 第2講習室
- ◎ 出席者 22名 (法人会員:16名 個人会員:6名 オブザーバ:0名)

1. 報告事項

1) 自己紹介

① 企画運営委員長挨拶

今日の月例会は、案内と内容が一部変わりますがよろしくお願ひします。
午後からのリスクアセスメントの討議は活発に願ひします。

② 月例会初参加者

三菱マテリアル 1名

2) 定例報告

① 第291回月例会(東京)及び第15回企画運営委員会の概要説明 報告:企画運営委員長

前回の月例会議事録の振り返りと企画運営委員会で審議した内容の概要説明。

② 第16回関西月例会・関西委員会活動報告 報告:関西委員会

詳細は関西月例会議事録を参照。

—補足説明—

安全要求仕様書が完成したので、別途報告予定。

③ 最新情報ピックアップ・フォローアップ

次回実施予定。

配布資料 なし

2. 研究テーマ「IEC60204-1のJIS化(JISB9960-1)改訂内容パート3」 13:00-14:00

次回実施予定。

3. 討議テーマ:「現状のリスクアセスメントの問題・課題に関する討議」

13:00-16:00

サブタイトル: 危険源同定手法の研究

企画運営委員会

—概要説明—

ISO12100:2010 で示される付属書 B に基づいて、危険源、危険状態、危険事象を系統的に同定する上での方法論及び問題、課題について討議。

以下について説明。

資料 3-1

- ・「ユーティリティ追跡法[TI法(UHIM)]による危険源同定について補足」
- ・「危険源リストの活用法について」

—ユーティリティ追跡法の追加説明—

ユーティリティ追跡法を応用すれば、ユーティリティの使用先だけでなく、機械的危険源・電氣的危険源以外の危険源同定範囲まで拡大可能。

—危険源リストの活用法について—

1. ISO12100 の 2010 年版では危険源を、原因と結果のリストで示している。
 - ・ 危険源の種類に関するより詳細な情報を提供するために、危険源の原因及びその結果に関する二つの列が追加されている。
 - ・ この表をどのように活用するのが重要
同一の危険箇所においても、
そこで想定される作業の種類/態様が異なれば危険源/危険事象が異なり、
異なったリスクが生じるため、そこで必要とされる 安全防護手段の種類も異なってくる
 - ・ 作業の形態には次の 5 つがある。
 - ①生産のための定常作業(操作、点検)
 - ②生産のための非定常作業
 - ③緊急(異常)処置
 - ④保全作業
 - ⑤誤操作/故意の操作①～⑤について具体的にどのような作業をするのかを想定できるか?
そのための手段について討論した。

—質疑応答—

- 1) 機械設計段階におけるリスクアセスメントでは、定常作業、非定常作業、緊急作業、保守作業などにおける、あり得るタスクを捉えて危険源同定する必要がある。ただし個人の能力に依存する部分もある。

2) これまでの災害発生情報を、ビッグデータとしてここからコンピュータ処理で同定すべき危険源を抽出するとの興味深い意見もあったが、国内産業界では自社の災害事例情報を外部に出すことはしないので、実現は困難と考えられる。

※ 一人一人から意見を述べてもらったが、タスクをどう明確にするかの方法についての手段を特定するのは困難であった。

※ 機械設計時点の危険源同定は、安全要求仕様書でタスクを網羅的に明確化することで補完する。機械設計者にすべてのタスクを捉えろと言っても困難である。機械の使用側面に精通しているユーザー側(生産部門)が、タスクや、誤使用内容について安全要求仕様書に入れ込むことで、一定の解が得られると関西委員会と考えており、安全要求仕様書を早期に公表する。

本日の結論

危険源の同定についての検討については、本日までの検討で完了とし、今後はリスクアセスメントの次工程以降に検討を進める。(危険源同定の段階での質問、議論は今後についても必要時あって良い。)

月例会説明資料

資料番号	資料名
292-3-1	危険源リストの活用法について